

目標体重の 設定についての考察

— 他施設と当院との比較を通して —

はじめに

当院での透析治療後の体重設定(目標体重)は、ドライウェイト(基本体重)から治療時に患者さんが着用している衣服を確認し、計算しています。しかし、患者さんによっては衣服を多く着用していたり、毎回違う衣服を着用していることで計算するにあたり、時間がかかったり、計算ミスにつながりやすくなっていると感じました。

私は当院での透析治療の方法しか知らないこともあり、他の施設の方法を含め、安全な透析治療になるような方法について調べてみました。他の透析施設経験者の当院のスタッフ・近隣の透析施設の聞き取り調査と当院の現状を集計し、全部で12か所の施設の情報を8項目に分けてまとめてみました。

聞き取り調査の項目

- ①DWの設定の仕方
- ②パジャマの重さの変動にどう対応しているか
- ③夏と冬のパジャマの違いをどう対応しているか
- ④体重測定時の靴・スリッパの扱いはどうしているか
- ⑤義足・コルセットなどの扱いはどうしているか
- ⑥パジャマを変更した時はどのように対応しているか
- ⑦寒さ対策はどうしているのか
- ⑧その他の意見

聞き取り調査の結果（集計）＜12ヶ所＞

① DWの設定の仕方

- パジャマ込み（11）

② パジャマの重さの変動にどう対応しているか

- 基本のパジャマの重さは決まっているが、患者により毎回重さの違うパジャマや下着を着用したり、重ね着をするため基本のパジャマにプラスマイナスし計算している。
また、患者が申告したパジャマであることを信じるしかないが、患者本人も間違えていることもある。
- 基本的に同じ重さ (8)
- 基本的に重さは計測していなかったが、普段と違うときは目分量で200~300g調整していた (1)
- 基本パジャマと違うときは、医師の指示で±400gまで誤差範囲としていた (1)

③夏と冬のパジャマの違いをどう対応しているか

- 夏、冬関係なく衣服の種類が多く、毎回パジャマの種類を確認している。多い患者は、パジャマの種類が10種類以上の患者もいる。また、中に着込まず、上着を羽織るよう説明しても協力を得られない患者もいる

- 変更時には申告してもらおう (4)
- 夏も冬もパジャマの重さは関係ない (2)
- 夏と冬は基本的には同じ重さ (1)
- 夏と冬で2種類準備してもらおう (1)
- 夏と冬は違うパジャマを準備し、衣服はマメに変更しないようにしていた (1)
- 申告するようにお願いしているが、しない場合は見た目で判断している (1)

④ 体重測定時の靴・スリッパの扱いはどうしているか

- 体重測定時は脱ぐ (7)
- 転倒防止のためDWに含んでいるなどの理由で、脱がない (2)
- 患者によっては、風袋に入れていた (1)
- 全患者統一しており、事前にマイナスしている (1)

⑤ 義足・コルセットなどの扱いはどうしているか

- 外さずに測定し、マイナスする (4)
- 外す (1)
- 外せる場合は外し、外せないものは都度マイナスする (1)
- 外せる場合は外し、外せないものは目安量をマイナスする (1)
- DW込みで測定 (1)
- 義足はDWに含み、将来的に外れるコルセットなどは、都度マイナスする (1)
- 普段着用していなければ、測定時に外す (1)
- 今のところ対象の患者がいない (1)

⑥ パジャマを変更した時はどのように対応しているか

- 患者から事前に申告されることもあるが、毎回患者に確認している。基本の衣服と違うことがある

- 予備も含めて同じ重さでお願いしている (6)

くまったく同じパジャマでなくてもよい。申告がない患者もいるため見た目判断することがある。お願いベースで強制はしていない。>

- パジャマ変更時、個人カードに「冬のパジャマ」と分かるように記載していた (2)

- パジャマの変更前に、事前にいつから変更するか申告してもらっていた (1)

- 夏パジャマから冬パジャマへ変更したら、その後はパジャマを変更しない (1)

- 基本のパジャマより重いときは、患者から申告してもらう (1)

⑦ 寒さ対策はどうしているのか

- スタッフ側の対応として、液温の調整・温タオルや湯たんぽの提供をする。患者側の対応として、厚地のパジャマの着用・下着類を中に着込んでいる。毛布の持参し使用する
- 患者の自前で準備してもらい、タオルケット・湯たんぽ（電子レンジで温められるものを購入し名前を書いてもらう）・毛布を使用する（4）
- 上着の着用（体重測定時には脱いでもらう）、毛布の使用（パジャマの中には着こまないよう患者に説明していた）（2）
- 患者から費用（金額は不明）をいただき、電気毛布を使用する（1）
- 室温の調整（1）
- 年配の患者はタオル、厚手の毛布を使用する（1）

⑧ その他の意見

- 毎回、自己の車椅子で測定する患者は事前に重さを測定し、測定体重から車椅子を引いている
- 冬のパジャマに変更になったら医師へ報告し、DWを変更してもらっていた (2)
- 下着類は100～150gを目安とし、200gくらいまでは看護師判断で調整し、衣服は細かく計測していない (1)
- 衣服の重さは目安で判断していた。スタッフは測らない (1)
- 透析中の状態により、100～200ml除水量が残っても許容範囲としていた (1)
- 100～200gは誤差範囲としていた (1)
- 毎日同じ条件で測定することが理想ではあるが、車椅子は湿度により0.1kg変わることもある (1)

- 透析を受ける際の身の回りの準備は、基本的には患者に出来ることは行ってもらい、出来ない場合は家族や介護タクシーの担当者に行ってもらおう。透析室のスタッフは、メインで準備は行わない決まりになっていた (1)
- シャントをしめつけられないようなパジャマにするように患者に説明していた (1)
- 患者自身が、きちんと風袋などの管理をしていた (1)
- 体重測定時に動画撮影し、トラブル時に衣服確認が出来るようにしていた (1)
- 血圧、心胸比、hanpを気にしている (1)
- 血圧、足のむくみ、心胸比の変化があれば医師へ申告している (1)
- 血圧を気にしている (1)
- 車椅子の患者が多く都度測定し、車椅子も製品により重さが違うことが問題に感じている (1)

当院の現状

①DWの設定の仕方

- ・パジャマ込み。

②パジャマの重さの変動にどう対応しているか

・基本のパジャマの重さは決まっているが、患者により毎回重さの違うパジャマや下着を着用したり、重ね着をするため基本のパジャマにプラスマイナスし計算している

また、患者が申告したパジャマであることを信じるしかないが、患者本人も間違えていることもある。

当院(今後の方向性 案)

①DWの設定の仕方

- ・パジャマ込み。

②パジャマの重さの変動にどう対応しているか

- ・基本的に同じ重さにする。

③夏と冬のパジャマの違いをどう対応しているか

- 夏、冬関係なく衣服の種類が多く、毎回パジャマの種類を確認している。多い患者はパジャマの種類が10種類以上の患者もいる。
- また、中に着込まず、上着を羽織るよう説明しても協力を得られない患者もいる。

④体重測定時の靴・スリッパの扱いはどうしているか

- 脱ぐ。

③夏と冬のパジャマの違いをどう対応しているか

- 夏と冬でそれぞれ2~3着とし、準備してもらう衣服は同じくらいの重さにしてもらう。

④体重測定時の靴・スリッパの扱いはどうしているか

- 脱ぐ。

⑤義足・コルセットなどの扱いはどうしているか

- DWには含まず、事前に重さを測定し、測定体重からマイナスする。

⑥パジャマを変更した時はどのように対応しているか

- 患者から事前に申告されることもあるが、毎回患者に確認している。
(基本の衣服と違うことがある。)

⑤義足・コルセットなどの扱いはどうしているか

- DWには含まず、事前に重さを測定し、測定体重からマイナスする。

⑥パジャマを変更した時はどのように対応しているか

- 変更時には、必ず申告してもらおう。

⑦寒さ対策はどうしているのか

- ・(スタッフ側の対応)
液温の調整・温タオルや湯たんぽの提供。
- ・(患者側の対応)
厚地のパジャマ着用、下着やももひきなどを中に着込んでいる。
毛布の持参・使用。

⑧その他の意見

- ・毎回、自己の車椅子で測定する患者は事前に重さを測定し、測定体重から引いている。

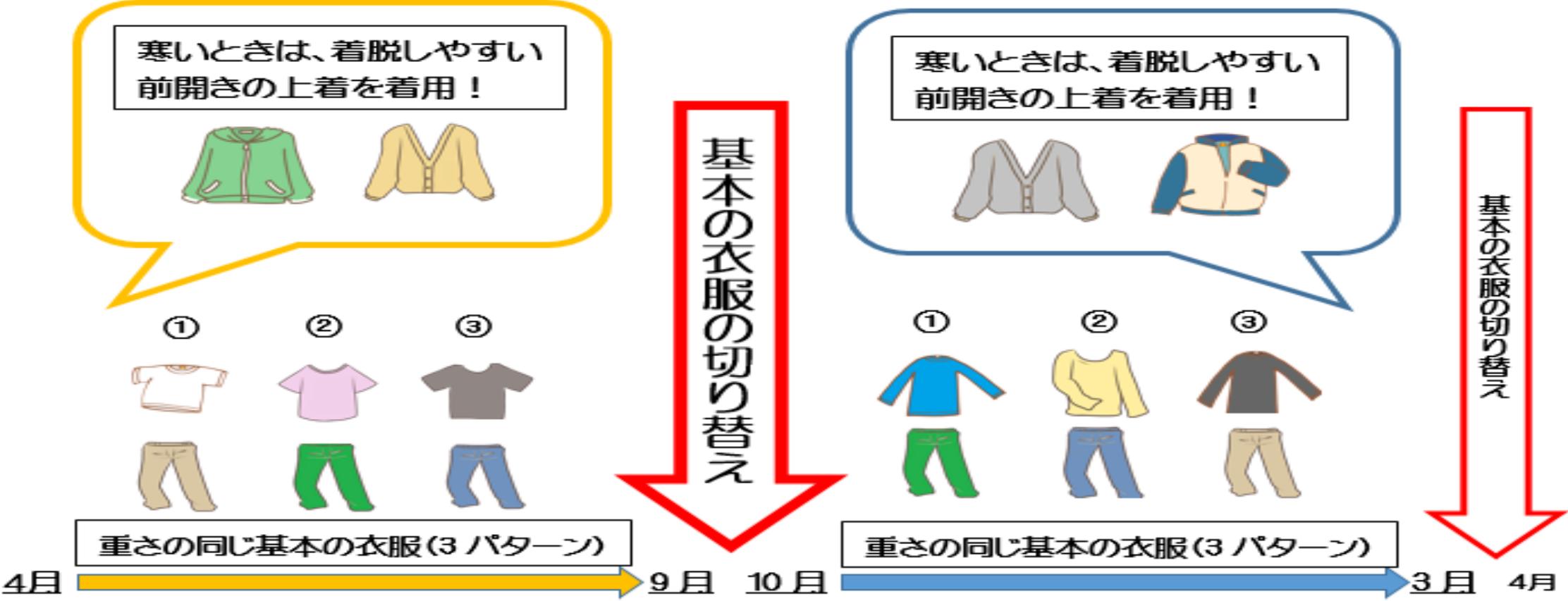
⑦寒さ対策はどうしているのか

- ・(スタッフ側の対応)
液温の調整・温タオルや湯たんぽの提供。(湯たんぽは、患者に電子レンジで温めるものを購入してもらい、スタッフが温めるようにする)
- ・(患者側の対応)
決められたパジャマ類以外は、中に着込んでこないようにしてもらおう。
上着の使用や、必要時には毛布を持参してもらおう。

⑧その他の意見

- ・毎回、自己の車椅子で測定する患者は事前に重さを測定し、測定体重から引いている。

～ 衣服の変更パターン ～



体重は上着を脱ぎ、基本の衣服で測定してもらう